

2001年7月11日

日本放送協会  
会長 海老沢勝二 様

日本放送協会  
番組制作局ドラマ番組プロデューサー  
菅 康弘様

**イッキ飲み防止連絡協議会**

代 表 加来 仁

<東京事務局>

〒103-0007 中央区日本橋浜町 3-19-3 ソグノ 21 ビル 2F  
特定非営利活動法人ASK (アルコール薬物問題全国市民協会) 内  
Tel 03-3249-2551 Fax 03-3249-2553

特定非営利活動法人ASK (アルコール薬物問題全国市民協会)

代 表 今成知美

〒103-0007 中央区日本橋浜町 3-19-3 ソグノ 21 ビル 2F  
Tel 03-3249-2551 Fax 03-3249-2553

## 「ちゅらさん」泡盛の飲み比べシーンへの抗議

本日、7月11日放映の「ちゅらさん」に、恵里の結婚をめぐって、父親の恵文が文也に泡盛の飲み比べを挑むシーンがありました。泡盛といえば、アルコール分30～43%の強い焼酎です。それを二人は、ぐい呑み、枴、茶碗、お椀と次々に競い、空のビンが何本も並んでいきました。

人は、アルコール血中濃度0.3～0.4%で昏睡、0.4%～0.45%を超えると死に至ると言われています。アルコール分40%の泡盛なら3合で、30%のものでも3合半飲むと命の危険があるのです。恵文、文也の飲んだ量を考えると、とても「二日酔い」の域ではなく、急性アルコール中毒で死んでもおかしくない量です。

本日、番組担当責任者にお電話で抗議したところ、「沖縄では泡盛は水で薄めて飲む。あの飲み比べもそれを前提にしている」との説明がありましたが、画面を見る限り水で薄めていることはわかりません。しかも1升ビンから直接注いでいるシーンがあることから、沖縄の風習を知らない大多数の視聴者は、ストレートで飲んでいると思うのが自然です。また、たとえ薄めていたとしても、危険がないとは言えません。「あれほど飲んで、酔いつぶれる程度ですむ」という間違った危険な認識を、多くの視聴者に与えてしまったことを、私たちは危惧しているのです。

イッキ飲み防止連絡協議会はイッキ飲ませによって子どもを亡くした遺族を中心にした団体で、これ以上犠牲者を出さないために、イッキ飲み・イッキ飲ませの危険性を訴える活動をASK(アルコール薬物問題全国市民協会)とともに進めてきました。しかし、死者は絶えません。

イッキ飲みの恐さは、ふつうのペースではとても飲めないような致死量のアルコールを短時間に摂取できてしまうところにあります。今回のような飲み比べも、「イッキ飲み」の一形態です。

そして、亡くなったケースを見てみるとその多くが焼酎によるもので、しかも、昏睡状態に陥っているのに「酔いつぶれて寝ているだけ」と放置されて亡くなるケースが非常に多いのです。それは、

「酒で死ぬことはない」という間違った認識が社会にはびこっているためです。今回のシーンはまさしくその認識を助長するもので、とても残念です。

「ちゅらさん」は、多くの視聴者が連日観ていますから、フォローが可能です。以下の点を、強く要望します。

なお、貴協会がどのように対応されるか、文書にてお答えください。

## 記

テロップなどで、「ちゅらさん」の視聴者に急性アルコール中毒の危険性を知らせること。

<例>

7月11日放映の飲み比べのシーンについて、急性アルコール中毒の危険性が非常に高いとの指摘が関連団体からありました。